

総合経済Ⅱ

科目ナンバリング ECP-402
選択必修 2単位

井内 正敏

1. 授業の概要(ねらい)

本講義は、主要な経済理論と重要な経済データを用いながら、総合的に、日本経済や世界経済の動向と現在の課題を明らかにするとともに、わが国のそれぞれの経済主体においてどのような対応が必要であるかについて考察することを目的としています。

秋学期の総合経済Ⅱでは、主にミクロ経済学の応用分野を中心に、企業や家計などの分野ごとに現状と課題を整理した上で、今後の見通しや望ましい対応の方向について検討していきます。

2. 授業の到達目標

①学生は、日本経済や世界経済の現状や主要課題について、その背景について、データを用いて説明できます。

②学生は、日本経済や世界経済の現状や諸課題について、データと理論に基づいて分析した上で、それらの課題に対してどのような対応を図るべきかについて、自らの見解をわかりやすく説得的に説明できます。

3. 成績評価の方法および基準

(1)期中に実施する小テスト(到達目標①) 30%

(2)期末に課すレポート(到達目標①、②) 70%

4. 教科書・参考文献

教科書

樋口一清・井内正敏編著 日本の消費者政策 創成社

参考文献

伊藤元重著 ミクロ経済学(第3版) 日本評論社

多田洋介著 行動経済学入門 日本経済新聞出版社(日経文庫)

藪下史郎著 非対称情報の経済学 光文社(光文社新書)

5. 準備学修の内容

レジュメと教科書を用いて講義を行います。毎回の授業の最後に、次回の講義内容の主要テーマを提示しますので、関連する経済用語や経済データを自ら調べた上で、主要テーマに関する自らの見解をノートに記述しておいてください。

また、次回授業までにレジュメやノート等を用いて経済用語や経済データの活用法を復習した上で、再度、自らの見解を小レポートとしてノートにまとめてください。

毎回の授業について、予習と復習にそれぞれ1時間ずつあてることを想定しています。

6. その他履修上の注意事項

日頃より新聞や雑誌などの経済記事に関心をもつとともに、報道される様々な経済問題に対して、どのような主体がどのように対応すべきであるかについて、自らの考えをまとめる習慣を身につけてください。

第15回の授業は、オンライン授業(LMSによるオンデマンド形式)になります。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション:需要と供給、価格メカニズムと市場均衡
- 【第2回】 ミクロ経済理論のエッセンス(1):効用最大化と需要曲線、利潤最大化と供給曲線、余剰分析
- 【第3回】 ミクロ経済理論のエッセンス(2):市場取引と資源配分、部分均衡分析と一般均衡分析
- 【第4回】 市場と消費者:情報の不完全性と限定合理性、コンシューマー・リテラシー
- 【第5回】 市場と企業:企業の義務・責任・貢献、消費者志向経営
- 【第6回】 消費者と企業:情報力と交渉力の格差、情報の非対称性と取引費用
- 【第7回】 市場の失敗と政府の役割:競争政策、環境政策、消費者政策
- 【第8回】 公正で健全な市場のためのルール:ミクロの経済政策
- 【第9回】 デジタル経済化の現状と課題:デジタル・プラットフォームを中心に
- 【第10回】 少子・高齢化の現状と課題:労働市場改革を中心に
- 【第11回】 グローバル経済化の現状と課題:地球環境問題や経済格差問題を中心に
- 【第12回】 持続可能な開発目標(SDGs)と日本の役割
- 【第13回】 コロナ禍の下での日本経済
- 【第14回】 経済社会の健全な発展と経済学:エビデンスに基づく政策立案(EBPM)、行動経済学や情報経済学等の活用
- 【第15回】 まとめ:データや理論の実社会での有効な活用法(オンライン授業:LMSによるオンデマンド形式)